

音叉振動式粘度計

▶ 測定範囲 $0.3 \text{ mPa} \cdot \text{s} \sim$ 低粘度領域の粘度測定が可能 (SV-1A/SV-10A/SV-10)

• 低粘度から高粘度までの幅広いレンジをセンサーの交換をしないで連続測定可能

▶ 粘度の変化・安定をリアルタイムに測定

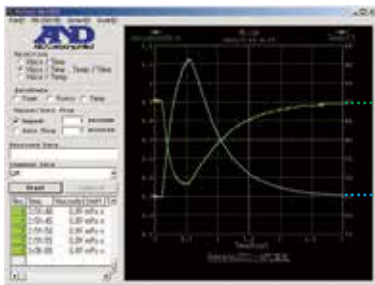
- 感度が高い：温度変化による粘度の変化や粘度が安定するタイミングなどの把握に
- 振動子と温度センサーは隣接しており、粘度と温度の相関性を正確に把握することが可能
- センサー部は薄いプレート形状をしているので、測定の際にセンサー自体の動作で測定サンプルの破壊が少なく、試料の粘度変化や温度変化に素早く応答したリアルタイムな測定が可能
- 簡単測定：センサー部を測定サンプルに浸けるだけ、細かいセッティング不要
- センサー部の清掃が容易
- 付属容器やピーカーなど、透明の容器を使用することで、試料の状態を見ながら測定可能

▶ 攪拌しながら測定が可能
マグネットスターラーなどで攪拌しながら測定が可能

• ピーカーなどの任意の容器で測定可能 (使用する容器での校正は必要です)

▶ 連続的に自動測定～自動終了

- データ処理ソフト WinCT-Viscosity 付属・粘度と温度の相関性をグラフ化
- データは CSV ファイルで保存



※ グラフの背景色は変更可能



SV-1A



SV-10

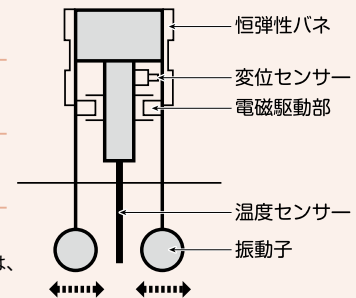


SV-10H

SV型 (音叉振動式) 粘度計の測定理論・機構

測定原理	流体中で、振動子を共振させ、振動子を一定振幅で動かすのに必要となる加振力 (トルク) から粘度を求める。
測定機構	左右の振動子は恒弾性バネで支持され、予め共振可能に調整される。この振動子を一定振幅で駆動する力 (トルク) が液体の粘性抵抗に比例することから粘度を測定する。

粘度の絶対値を求める場合は、SVシリーズの測定結果をその液体の密度 $[\text{g}/\text{cm}^3]$ で除してください。SVシリーズは、測定原理から、「粘度×密度」を検出し、表示しています (SVシリーズの表示値の単位としては、実際には $\text{mPa} \cdot \text{s} \times \text{g}/\text{cm}^3$ となります)。

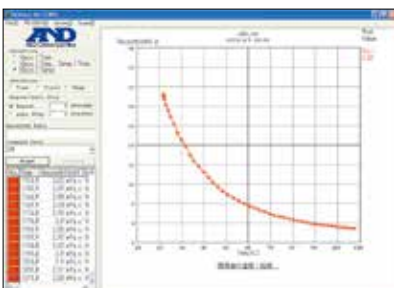


WinCT-Viscosity

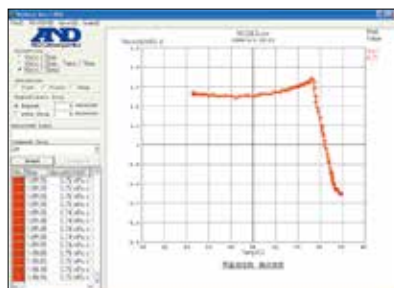
粘度計用データ通信ソフトウェア

測定データをパソコンへ取り込み、リアルタイムグラフ化する専用ソフト WinCT-Viscosity を標準付属。(SV-Hを除く)

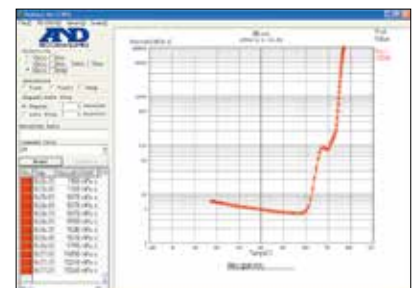
対応OS : Windows XP、Vista、7、8、10



潤滑油の温度・粘度



卵白の温度変化



界面活性剤 曇点測定